

北方領土の日記念運用について

1、はじめに

黒部アマチュア無線クラブ（JA9YDO）では毎年2月7日「北方領土の日」を記念して根室アマチュア無線クラブ（JA9YSQ）と友好交信を行っている。そこで過去の経緯と今回の取組みを紹介することとする。

2、過去の経緯

この行事は当時の会長が青年会議所に在籍した関係で北方領土返還運動をPRする一環として黒部市と姉妹都市である根室市にある根室アマチュア無線クラブと交信を行い、また全国のアマチュア無線家と交信することにより2月7日の北方領土の日を広く全国に宣伝することを考え実施された。この時にはすでに根室アマチュア無線クラブでは記念交信を行っており、黒部アマチュア無線クラブからお願いして交信を行う時間を決めて実施された。

会場としては北方四島の住民が多く住んでいる生地地区にある黒部市コミュニティーセンター（生地公民館）が選ばれた。地上高が高くロケーションが良かった。そのあと会場を黒部市国際文化センター（コラーレ）に移した。敷地が広く、3.5メガのワイヤーアンテナを楽に設置できるぐらいであった。だが建物内にミニFM局（ラジオ・ミュー）が開局した関係で翌年に黒部市農村環境改善センター（前沢公民館）に移した。ここは標高が他の2会場より高く、北方面のロケーションが良かった。

3、根室アマチュア無線クラブとの交信

北方領土の日記念運用で気を使わなければならない事は根室アマチュア無線クラブと友好交信を行う時間・周波数の調整や協力（全国のアマチュア無線家に交信を行っている時間を割いて交信を行う）それにこの時期の道東との交信はコンディションに左右されやすいという点である。

今年度会長になった私としては根室アマチュア無線クラブとの連絡を密にすることを目指した。幸い会長である山本さんはインターネットを行っており、電子メールにて情報交換を行っている。道東との交信に関しては7、14、21メガ帯が考えられるが、近年7メガ帯は困難な状態が続いており、21メガ帯はコンディションに左右されやすい。14メガ帯がベストではないかと思うが局数が少なく根室側としては利点が少なく、理解が必要となる。昨年は根室の会場が市街地に近い北海道立四島交流センターであったため、クラブ員の施設を使用して14メガの交信を行ったが、例年、納沙布岬にある北方館では時間、人員の関係上難しいのではと思われる。

4、今年の記念運用

今年は2月3日にアンテナ設営を行った。当日はクラブ備品の移送があったため設営のみで終了した。4日はJCCサービスを行った。7、21メガの交信であったが、7メガで昼間の道東の交信は今年も難しいようだ。21メガは紋別郡、標津郡と交信ができたの

でこの周波数は期待できそうである。昨年は21メガのコンディションが良く楽に交信ができたので、今年も期待できると思った。翌日のメールで根室側はアンテナ設営を行ったという。北方領土の画像も同時に送られてきた。

7日、朝から天候が曇りで気温が5度であった。根室側との連絡でまだ準備中ということだったので9時30分ごろから7, 21メガで運用を行った。7メガは平日ではあったが混んでいたのでは、21メガへ移ってCQをかけた。沖縄、群馬と続きモンゴル（日本人）とのDXができた。マイナス20度であるという言葉にみな驚いた。根室側が21.172メガでCQをかけているということだったのでダイヤルを合わせた。弱い！今年の交信は大変だなと思った。最初、武隈さんが呼びかけたが返事がもらえなかった。しばらくして私が変わって呼びかけたが同様であった。しかし、11時40分ごろに根室側から応答があり、お互い55のレポートで交信ができた。ノイズが多く交信のすべては理解できなかったが根室アマチュア無線クラブ副会長・武隈さんより北方領土の日を互いにPRしましょうと言っておられた。天候は晴れ、気温はマイナス7度、北方領土は良く見えたようである。交信終了後、メールが来て、根室側の交信風景の画像が送られてきた。このあと15時までJCCサービスを行い約80局と交信した。

5、今後について

日ソ間では2000年までに平和条約を締結するよう全力を尽くすとのクラスノヤルスク合意が行われたもののはや2001年となっても解決の糸口が見えない状態が続いている。北方四島居住者も年代とともに減りつつあり返還運動の盛り上がりの継続が必要となっている。アマチュア無線というのはあくまでも趣味の世界ではあるが、地域クラブとしては少しでも地域の貢献に努めなければならないと思っている。

6、最後に

記念交信の事業において平日の昼間にかかわらず参加していただいた黒部アマチュア無線クラブ員、根室アマチュア無線クラブのみなさん、JF9HJSさんに深く感謝いたします。

